



私たちは花が好き。緑が好き。人が好き。

園芸福祉ふくおかネット

ネット通信 花便り

No. 33 (2014年 11月号)

グリップキャンペーン 2014 特集号



グリップキャンペーン2014

コンテナガーデンコンテスト2014

優秀賞 (西日本新聞社賞)

目次

・グリップキャンペーン 2014	
ふりかえ	2
・グリップキャンペーンに	
参加して	2
・みどりのミニプランコは	
窓辺のアート	3
・種でお絵描き	3
・コンテナガーデンコンテストで	
「優秀賞」受賞	4
・ふたつのイベントから	5
・いやしの苔玉体験	5
・緑のミニぷらんこに参加して	6
・たのしく浮浪した二日間	6
・これが園芸福祉だなあ	7
・グリップキャンペーンを終えて	8
・皇帝ダリア交流	8
・園芸福祉の庭定例作業の	
お知らせ	9
・定例会のご案内	10
・あなたも活動紹介を	10
・書籍のご案内	10

☆タイトル：ようこそ福岡へ

☆コメント：お客様をお迎えする心を作品にしてみました。

☆作者：黒瀬 恵子 (園芸福祉ふくおかネット副代表兼事務局長)

グリップキャンペーン 2014 ふりかえり

谷口 博隆

今年のテーマは、「ひろげよう そだてよう みどりの都市」これは全国都市緑化月間と共通のテーマで、平成26年10月18日（土）・19日（日）の二日間福岡市中央区にある天神中央公園で開催された。園芸福祉ふくおかネットは、福岡市都市緑化推進行事実行委員会の委員として、グリップキャンペーンに参加しています。黒瀬副代表の指導により会員が制作し、自宅で一ヶ月間養生管理したハンギングバスケット20基の展示装飾をはじめ会員が集めた野菜やくだものなどの種をコルクボードに描く「種でお絵描き」卵の殻に多肉植物を植えて楽しむ「みどりのミニぷらんこ」「いやしのこけ玉づくり教室」の他に「土の恵み直売を楽しむ」と題し 会員の作品や農産物などの販売も行い、ご来場の多くの皆様との言葉のキャッチボールから絆を深め、そこから学ぶことが沢山あり、有意義な時を共有することが出来ました。この体験を活かして、緑のもたらす福祉の効果をさらに広げ、みんなで幸せになりましょう。



グリップとスタッフにお花を添えて、ウエルカムスマイル

グリップキャンペーンに参加して

二俣 はるみ

今年は物品販売を受け持ちました。商品を並べ整理している最中にお客さんの品定めが始まってしまい、まだ、心の準備も整わない内にバタバタと開店してしまいました。

会員の作品としてエコ鉢や木の枝の多肉植物の寄せ植え、こけ玉の寄せ植え、ハンギングバスケット、花苗、球根、農産物などが持ち寄られました。

これらの商品はお客さまだけではなく販売している私たちにも興味のあるもので、どれを買おうか考えるのも楽しいことでした。特に新鮮な農産物は早々と売り切れてしまい、次の日に追加納品というものもありました。また、お客さんの中には1日目に買って美味しかったということで2日目も買いに来られた方や、来年も買いに来たいと仰る方も居られて、商品を販売する喜びを体験させてもらいました。



お客さまからいろいろな質問を受けます。エコ鉢の作り方、植物の手入れの仕方、植える時期、成長の様子など、食物に関しては調理の仕方、保存の方法など様々な質問があります。私の知識不足分はまわりの方に補

ってもらい対応しましたが、このお客さまとのやり取りの中でもう少し園芸福祉をアピールできていたらなーというのが私の反省点です。

2日間を終わって、商品も大分販売できて少しホットしましたが、販売することはごく一部のことで事前の準備の大変さに商品を提供していただいた方々には本当に感謝です。

皆様、お疲れ様でした。



みどりのプランコは窓辺のアート

山崎 博子

卵の殻に多肉植物を植え、中の土がこぼれないように糊つき装飾用の土を上に入れます。そして、次は針金アートです。小さな瓶に針金を巻き付け卵がすっぽりと入る場所をつくり、あとは各人の思い、ハートの形やト音記号だったり、創造性豊かに曲げたり伸ばしたり手仕事を楽しみます。参加された方は短時間で作れ、しかも100円、2個作る方もいらっしゃいました。

身近なところにぶら下げて、インテリアに最適。水やりも週に一度くらい、大きくなりすぎたらカットして別の鉢で増やして、さらに楽しむこともできます。



今、多肉植物はブームらしいけど、軽くて身近なところで育てることができるので、高齢者の方や仕事が忙しくて、という方にピッタリと思いました。

園芸福祉ふくおかネットが発足以来、こけ玉を進化させ定着させてきたように、多肉植物もみんなの創造性で進化させることを願っています。

作り方の指導には、松永加代子・国松記美江・北野多美子・松藤真貴・山崎博子と3名の緑のコーディネーターさんが参加されました。

今年で2回目の講座、一番心配なのが卵の殻をみつめることでしたが、卵を使った料理をするとき、割らずに包丁の刃のとがったところでコツコツと穴をあけてくれた卵の殻がたくさん集まりました。ご協力ありがとうございました。

種でお絵描き

沖本 圓

昨年、たいへんご好評をいただいたので今回はバージョンアップして、種を貼り付ける板を段ボール板からコルクボードに変更しました。

予算の関係で額縁までは用意できませんでしたが、コルクボードを50枚準備することが出来ました。今回ブース内で他にも色々な企画が同時進行するため、テーブル周りが少し狭くはなりましたが、準備したコルクボードはすべて描かれて終了しました。

今回も身近な植物の種が会員の皆様のご協力で多数集まり、種の説明用のファイルも倍に

ふえて役に立ちました。子どもたちも楽しんでいましたが、今回は特に大人の方、それもお年寄りに楽しんで頂いたのが印象に残りました。種も身近な植物なのに見たことがなかったという感想を頂いたり、コルクボードにしたので長く飾ってもらえるもの(ゴミにならないように)になったと思います。沢山の珍しい種の中で特に子どもたちに人気があって、あっという間になくなってしまったのがどنگりでした。やっぱり子どもはどنگりが好きなんだな一と、感心しました。



コンテナガーデンコンテストで「優秀賞」受賞

黒瀬 恵子

グリップキャンペーン 2014 コンテナガーデンコンテストで、2位の優秀賞、西日本新聞社賞を受賞しました。

じっとしているだけでも汗が流れ落ちる7月の末、谷口代表と数名の役員で、城島瓦の洪田工場へ見学を兼ねてご相談に行きました。7月14日に長崎の旧オランダ村で「和の寄せ植え華道」の講習会に参加したばかりの私たちは、脳裏に鮮明に残っているデモンストレーションの様子や瓦素材で作られた容器のことなど、笑顔で聞いてくださる洪田ご夫妻に熱く熱く語りました。グリップキャンペーン(福岡市都市緑化推進行事)で、コンテナガーデンコンテストが昨年から行われるようになったことや、そのコンテストに城島瓦の器を使った作品を出品したいことなどお話すると「器づくりは、いつも涼しくなってからするようにしていますが、粘土で作った器を乾かすのに1ヶ月かかるから、コンテストに間に合わせるには暑いけど9月初めには作らんといかんでしょねえ」とご主人が言って下さいました。

9月の器づくりは、会員研修として多くの会員が参加し、それぞれ思い思いの器を作りました。

「福岡に初めて車で来ました」と、グリップキャンペーンの会場で奥様と一緒に来てくださった



時は本当に嬉しくて、真っ先に城島瓦の洪田工場で作らせて頂いた器を使った作品が、コンテストで2位になったことを報告し、作品の前で一緒に喜び合いました。

器づくりを指導して下さいました奥様は、会場に展示された作品を1つ1つ眺めて行きながら「ああ、この器」と、城島瓦の器に植えられた作品の前で足を止め、器づくりをしていた時の様子を思い浮かべながら目を細めていらっしゃいました。

「趣味は草取りと奥さんの笑顔を見ること」と言われていたご主人も、奥様に負けなくらい素敵な笑顔でした。城島瓦を通して素敵な交流が生まれ、城島瓦でつくった器に植え込んだ作品が幸運にも受賞し、私の心にも実りの秋が訪れたようでした。ありがとうございました。

ふたつのイベントから

北野多美子

♪ 種でお絵描き

今回は、台紙が段ボールからコルクボードになりゴージャス感がありました。

ウエルカムボードを作成された方の発想には拍手。

子どもの自由な発想もさることながら、大人向けにもアイデアがあつてと良いと思いました。



♪ みどりのミニぷらんこ

多肉植物を取り入れている他の団体もあるので、イベント的に厳しくなった感じはあります。器にする卵殻は繊細なので小さい子供さん一人でするのは手助けが必要になり、私の場合おせっかい過ぎたかも知れません。多肉植物に詳しいお客様がいらしての会話では、勉強不足が否めませんでした。



器を吊り下げる針金細工も楽しいので何人かの方には作っていただきました。

グリップキャンペーン、非日常のひと時を楽しむことができました。

いやしの苔玉体験

坂口 妙子

私は、村口さん、森林さんと3人で苔玉体験講座を担当しました。若い方から少し前若かった女の方をはじめ、高校の男子生徒や、小学生の男の子など、いろんな人々に苔玉づくりを楽しんでいただくことが出来ました。緑の布でまーるく作った見本の苔玉を使って、苔を押さえる木綿糸の巻き方など実演しながら教えると「初めて苔玉をつくるので」と心配されていた方も、出来上がった作品を見られると満足されたようで、嬉しそうにニコニコしてお持ち帰りになりました。



私達も一個一個苔玉が出来上がるたびにお客様と一緒にうれしい気分を味わうことが出来ました。

緑のミニぷらんこに参加して

国松 記美江

ちょうどこれを作って一年になるなあ、よく無事に長持ちしていると感心していると、ナイスにワークショップへの参加となりました。

卵の殻とワイヤー、色々な種類の多肉ちゃんたち。これだけでこんなにおしゃれなものができるなんて！「卵はどうやって穴をあけるのかしら」お客様からドキリとする質問。準備を何もしていない私にはグサリとききました。会員の皆様のご尽力にはただただ敬服いたします。この晴天の中、グリッピーキャンペーンは大変楽しく、お得なイベントなので多くの人に参加してもらいたいと思います。私もお客さんでのんびり参加して沢山買い込みたいとチョット思いました。



メインステージ広場入口の両サイドにウェルカムフラワーとして会員の作品を展示！

たのしく“浮浪”（Float）した二日間

西川直喜

グリッピーキャンペーン（以下、グリキャンと表記）へは、初回から毎年欠かさず参加していますが、今年は何の担当にも付かず、手薄と思えるところに臨機応変に手助けに入るというスタンスで活動しました。この3、4年は「園芸福祉ふくおかネット」の担当者としてキャンペーンそのものの企画連絡会議から携わっていたのですが、今年にはふくおかネットの連絡会議にも十分に参加できず、当日の役回りも未定のまま参加しました。

園芸福祉のメンバーは、日頃からさまざまな団体でも活躍しておられ、グリキャンではそれらの団体の多くが活動主体として参加します。その結果、ふくおかネットのテントで活動できる人の数が極めて少なく必要最小限に近い人数で運営することになり、テント内で行う4つの企画の各担当者はそれぞれ大変になります。僕は何も担当してないので「気楽に行こ〜う!？」と思っていましたが、状況に応じて対応しようとする結構大変でした。

今回は、過去にはなかった「物販」ができるようになり、ふくおかネットも複数のメンバーの力作が出品されましたので、今までとは違った雰囲気がありました。農産物、球根、花苗、こけ玉、ハンギングバスケット、ミニ寄せ植え、小物など、ちょっとしたセレクトショップの“売り子”体験が出来ました。



われわれの「定番」となった「こけ玉作り」も、担当の新会員のかがたのフォローに入り、「みどりのミニぷらんこ」も、ハンガー作りに追われる担当者に代わって植えつけの手助けをしました。子供たちに大人気の「たねでお絵かき」には、今回は提供できる種が拾えなかったのであまりお役に立てなかったけど、担当の方が準備してあった写真などの簡単な説明をしながら“小さなお客様”“かつて小さかったお客様”などと

「園芸やみどりの楽しみ」や「いのちの不思議さ」などの会話をして楽しんでいただきました。

担当を固定しない“フローティングマン”がいると各担当者もそれぞれに集中できて全体が緩やかにまとまるのではないかな～と思ひ片付けを終えました。

いつになく気楽で楽しかったけど、日頃あまり動かない身には二日間の立ちっぱなしはかなり応えました。



赤い椅子に腰かけた
ミズゴケのグリッピー

これが園芸福祉だなあ

松藤真紀

今年も10月18、19日に行われたグリッピーキャンペーンに参加しました。ここ数年は、ふくおかネットの会員でもある黒瀬先生に指導して戴き、ハンギングバスケットづくりに挑戦しています。



制作してからイベントまでのひと月は不慣れな早起きと水やりも楽しいものでしたが、今回は「緑のミニぷらんこ」について、参加者として嬉しかったことがあったので書いてみたいと思います。「緑のミニぷらんこ」は卵の殻に多肉植物を植えこんで、ワイヤーで吊った創作物です。小さくて愛らしく、お部屋に飾るとワンポイントの飾りになります。「緑のミニぷらんこ」ですが、今年は会社に持って行ってみました。卵の殻2つ

にお気に入りの多肉植物を植えて、グラスにビーズを敷いてその上に卵の殻の植え込みを置いてみました。(ワイヤーが無いからぷらんこじゃないですね?)それをオフィスの入口に飾っています。オフィスには、会社の同僚や他部署の人たちばかりでなく、ヤクルトの販売員の方、文房具の業者さんなど外部の方々が入り出されます。

「これ何ですか?」、「自分で作ったんですか?」などと皆さん興味を示され、作り方とか素材について次から次へと質問の山・・・注目的になっています。みなさん興味を持たれ、自分で作ってみたいと言われます。

普段は話をする事のない人たちとも、「みどり」を介して、いろいろなお話をすることができて、これが園芸福祉だなあと感じています。来年のグリッピーキャンペーンもまた楽しみです。

グリップキャンペーン2014を終えて

辻 和広

私は今回、園芸福祉ふくおかネットの活動紹介を2日間、担当させていただきました。持ち時間は15分ということで10年間の活動を分かりやすく紹介するにはどうしたら良いかと苦慮しました。谷口代表にも相談しながら当日を迎えました。1日目は快晴でとても暑くなりました。黒瀬さんが横で苔玉を作る、それを説明しながら活動の紹介もと、始まる前はとても緊張しました。この日、私は腕時計を忘れてしまい、更に、緊張が増幅しました。何とか原稿を把握し、活動紹介のステージが始まり「園芸福祉とは」「ふくおかネットの活動紹介」「養成講座」を説明しながら、苔玉づくりの実演をしてある黒瀬さんとの掛け合いもと、あっという間に時間は過ぎました。終わってイベント担当の方に時間を尋ねると「13分でしたよ」との返事を聞いてホッとしました。2日目は「ソフトバンクホークスのCS」があったためか来場者の方が少ないように感じました。谷口代表に相談し、ステージで作った苔玉をプレゼントする「じゃんけん大会」をしようということになり、新米もサービスしました。活動紹介を10分で終えて、最後のじゃんけん大会です！作戦が功を奏して、とても盛り上げて終了することが出来ました。普段、学校で生徒の前では、話し慣れています。イベント会場のメインステージは慣れない場所なので、いつもと勝手が違いました。黒瀬さんの



の御協力、ありがとうございました。今回の活動紹介で「園芸福祉」に少しでも感心や興味を持ってもらい、「養成講座」の参加者や「園芸福祉ふくおかネット」の会員が一人でも多く集まれば頑張った甲斐があったと思います。11月も「初級園芸福祉士養成講座」や「勤マルの日」などでお忙しいとは思いますがご協力よろしく願いいたします。皆様お疲れ様でした。



皇帝ダリア交流

山崎 博子

11月の青空にピンクの大きい花を仰ぎ見た時にはビックリしました。12年くらい前になるでしょうか、九州がんセンターの庭に皇帝ダリアが咲きとても話題になりました。その後、八女の広川まで皇帝様を見に行き、さし根をする枝を分けて頂き「園芸福祉の庭」や「韓国釜山」、東京の方へと全国に園芸福祉交流が広がって行きました。

また、広川の方からは自宅のミカンを頂き、新潟地震の時に被災地に送りとても喜ばれました。

先日、千葉の大野新司（前日本園芸福祉普及協会理事・事務局長）様から嬉しい便りが届きました。福岡から里子に出していた皇帝様、いろんな方の手厚い保護の元、関東地方の方の間に、皇帝様交流が続いていますと報告を頂きました。一つの花にやさしい人の心がつながって、見知らぬ人との交流が広がっていくって、素晴らしいです。今回、カンナの球根をたくさん送っていただきました。あなたの活動場所にもどうぞ、花咲かせてください。



園芸福祉の庭の皇帝ダリア、10月26日は大きな蕾をたくさんつけていました。



11月16日青空に映えて、咲き誇っています。



事務局からのお知らせ

◆ 園芸福祉の庭 定例作業のお知らせ

毎月、最終日曜日の10時から実施しております。

場所は、アイランドシティ中央公園（福岡市東区香椎照葉4丁目）園芸福祉の庭です。花壇の維持管理、花の植栽や除草、灌水などの手入れ作業を2時間程度実施しています。作業の後は、お茶を飲みながら和やかな時を共有し、花の育て方や土づくりのことなど、日ごろの疑問に実践者が応えてくれるプチ勉強会の場にもなります。

あなたも一歩踏み出して！ 「園芸福祉の庭」の定例作業に参加してみませんか。会話も弾み、笑顔がいっぱいで、とっても楽しいですよー♪

◆ 定例会のご案内

◎園芸福祉ふくおかネットでは、毎月第3土曜日15時から2時間程度、福岡市ボランティアセンターで定例会を開催しております。

会員相互の意見や情報の交換、活動報告、作品の紹介、質問など役立つことがいっぱいです。定例会が終わってからの交流会は、本音が飛び交い、味わい深く、楽しいひと時です。

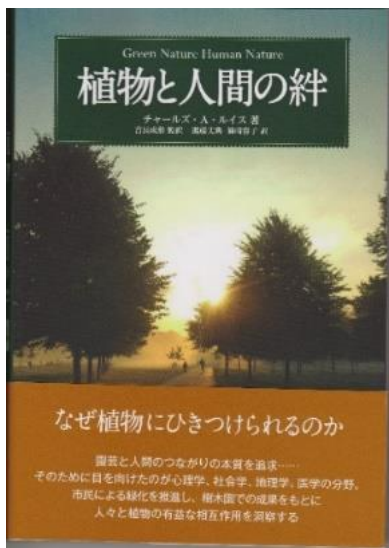
◆ あなたも活動紹介をしませんか？

◎個人やグループ、学校、施設、地域などで行っている園芸福祉の活動をお知らせ下さい。

◎メールやお手紙に写真を添えて、事務局までお送りください。

◆ 書籍のご案内

「植物と人間の絆」



著者 チャールズ・A・ルイス (1924年 米国ペンシルベニア州)

著書「Green Nature Human Nature」

監訳 吉長成恭 (NPO 日本園芸福祉普及協会理事長)

翻訳 進藤丈典 (園芸福祉士/ひろしまね園芸福祉協会理事)

篠崎容子 (初級園芸福祉士/ル・フルーロン主宰)

定価 1,800円+税

発行 創森社

(監訳にあたってより) 原著は米国や日本の園芸療法や園芸福祉活動のバイブルのような存在として、心の支えになっている名著です。花や緑を好きになるのはもちろん、自然や植物を理解するのに遅すぎるといえることはありません。不断に復興や平和を築いていくためには、自然や植物は不可欠なものであり、人間との関係性、持続性、循環性をより確かなものにしていく必要があります。本書でその手がかり、ヒントをつかんでいただければ幸いです。

☆この本の購入を希望される方は事務局にご連絡ください。

● 園芸福祉ふくおかネット事務局 ●

- 〒810-0033 福岡市中央区小笹 1-9-25
- TEL : 090-8626-1586 (黒瀬)
- E-mail : engeifukusi.fukuoka@hya.bbq.jp